

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970102634		
法人名	社会福祉法人 奈良苑		
事業所名	学園前西グループホーム(4階大和)		
所在地	奈良県奈良市二名3丁目1148		
自己評価作成日	平成24年10月18日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成24年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれの利用者に向けた個別レクリエーションに力を入れています。外出であれば喫茶・パチンコ・買い物などに行っています。また、季節に合わせて利用者と一緒に作品作りをし、その季節を感じれるように努めています。利用者同士や職員との会話も楽しくいつも賑やかなフロアです。より信頼関係が築けるように日々コミュニケーションを心がけ、安心して頂けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人奈良苑の広大な敷地に本館、新館に続く別館にグループホームがある。2階、3階、4階に在住する利用者は平均介護度が異なっている。平成22年度は2階春日を評価対象にし、24年度は4階大和を評価対象にしている。平均介護度は、4階が2.7で、3階は平均介護度4と介護度の高い利用者が入居している。担当職員は生き生きと速やかに行動する気持のよい立ち回りをされていた。ユニット毎の情報交流もなされ運営に反映されている。歯科衛生士の口腔ケアの実践に立ち会えることができ、看護師、栄養士とも速やかな連携がもたれ、利用者が安心して安全に生活できるよう細心で柔軟な支援が行われている事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各寮母室に運営理念が展示しており常に目に入るような大きな字で貼っている。	利用者、家族本位を貫き地域の中で暮らし続けることを支えていく支援を目的としている。法人「奈良苑」の総合理念に基づいて職員の支援が実践されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの協力で喫茶・バレエ・太極拳・夏祭り・バザーなどの交流を深めている。	玄関、外部者出入り口正面に基本理念を掲出してあり、法人行事を通して地域交流に取り組んでいる。中学生の福祉体験学習や幼稚園児の訪問等交流がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年6回の運営推進会議において、実際に利用者と触れ合ってもらい体験することで、事業所の知識を活用していただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動について理解を深めていただき、意見交換をすることによってサービス向上に活かしている。	地域包括支援センター、各階家族代表3名、地域代表2名、職員等で年6回開催されている。避難訓練や感染症対策などを話題にしている。議事録を作成しフロア会議で報告している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者、ケアマネ等で相談窓口となり常に情報交換行っている。	福祉課に医療費限度額提出書類の相談するなど、行政との連携を図っている。機関紙「奈良苑たより」を届けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個々の人権の為に、法人内で正しく理解や会議を行い、勉強会に取り入れて意識付けを行っている。実際に身体拘束は行っていない。	ユニット会議で各階の介護度別の車椅子介助をテーマに学習をしている。落下防止や転倒防止の見守りについて情報交換をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加しており、会議などで学ぶ機会がある。法人内では、ユニットリーダー設置しており、常に職員の情報、行動など把握し注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者などは研修などに参加している。勉強したことを活かし、スムーズなサービスが提供できる体制を整えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には書類を一つ一つ確認しながら説明を行い、理解、納得をして頂く中で契約を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず挨拶を行い、普段の様子をお伝えしコミュニケーションの時間を大切に少しでも信頼関係を築くことによって気軽に相談、会話ができるように雰囲気づくりを心掛けている。	家族来訪時に情報交換をし、面談記録をケアプラン作成時に検討している。家族の来訪が途切れる方には写真などを送付している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議や朝・夕の申し送り時にその都度意見を聞き、対応に努めている。	ユニット会議で各階の職員意見を集約し不安を解消している。管理者とフロア会議の意見を交換し運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と職員個々に面談を行い、職員の向上に繋げている。年に数回職員との交流を深める機会を作っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では新人職員勉強会や中堅職員勉強会があり、経験年数やその立場に合わせた内容の勉強会にも参加できるようになっている。法人外ではリーダー研修・認知症実践研修に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などに参加での同業者との情報交換や交流する機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴やご家族からの情報を得ることのできるだけニーズを引き出せるように取り組んでいる。また、できるだけ早く信頼関係が築けるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接段階で家族から要望を伺っている。その後も面会時に普段の様子を伝え、新たな要望などないか随時聞くことで信頼関係を築けるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ケアマネが必要に応じて対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔話を通して、その時の様子や言葉の意味を教えるもらって勉強させていただいている。また、食事も同じものを食べて関係を築けるように努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	雑談することで気軽に話ができる雰囲気、環境づくりに心がけ信頼関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族、友人からの手紙、電話などを取り次ぎ、楽しい時間を過ごして頂けるよう配慮に努めている。	家族と外食に出掛けたり、一泊二日の墓参りをする利用者も居る。地域の中で買い物を楽しんだり、紅葉レクリエーションや、文化会館でのフラダンスにも参加している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でのトラブルが起きないように、場の雰囲気づくりに工夫し支援に努力している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから断ち切ることはせず、相談の姿勢を持っている。必要があれば対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活習慣、時間も大切にしながらコミュニケーションを日々行うことで情報を得ながら対応に努めている。	利用者の思いや要望を話せる雰囲気をつくり支援経過に記載し、家族との連絡ノートを参照してそれぞれの意向をくみ取り充実した生活の実現をチームで話合っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人・家族からの情報が詳しく記録されることで、本人の生活歴の把握や本人との会話からも知ることが出来る。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタル・食事量・排泄などすべて記録しているので状態の把握はすぐできるようになっている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度ケアマネと計画作成担当者と担当職員が会議し、計画担当者が作成を行う。ケアマネが中心となって実施している。	ケアプラン作成時に見直しを定期的に行えるように職員間で確認をする。利用者の生活リズムを大切に職員、ケアマネージャーで介護計画書の作成に当り、モニタリングは毎月、見直しは3ヵ月毎に実施される。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、担当者が記録を行っているので、見るとすべてがわかるようになっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問介護利用での受診や必要に応じて対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々のボランティアの受け入れがあり、喫茶店や太極拳などの余暇活動にも貢献して頂いている。また、推進会議など地域住民の参加により理解も深められている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科・内科・皮膚科・精神科などかかりつけ医師が来苑されるため必要に応じて、医療を受けている。	週一回、内科、精神科等定期往診がある。歯科医、歯科衛生士の訪問診療もある。必要に応じて家族に報告している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアマネに相談し、ケアマネを通して看護師との連携を図っている。ケアマネ不在時は現場職員が直接看護師に相談できている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家人と話し合い医療機関との連携を図っている。入院・退院時のサマリー作成により情報交換に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の思いも大切に現状を見極めた指針の対応を行っている。	利用者、家族の思いを大切にしながら、重度化したときは、再度確認をとり、医師判断を含め説明し書面で確認し合う。できる限りの看取り支援を心掛けている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内でも研修を行っており、夜間緊急時のマニュアルも整備されている。また、会議などでもその都度緊急対応の方法も確認している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回必ず実施している。	法人全体で災害対策講習、避難訓練を年に2回実施している。夜勤スタッフのみの訓練もある。運営推進委員会の地域代表の訓練参加がある。スプリンクラー、火災通報装置設備、消火器完備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録の保管は寮母室の中で持ち出すときは必ず職員が付き添い、席を外すときは寮母室に戻し、利用者・関係者以外の手に触れないよう十分に注意を払っている。	自尊心を傷つけない対応を心掛けている。自分の家で生活している雰囲気を感じてもらい、家族が使っている呼称で話しかけている。トイレでのプライバシーについては、各居室のトイレで周りを気にすることなく利用できるのが安心である。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話をしっかり聞き、ゆっくりとわかりやすく説明を行い無理はせず本人の意思を尊重している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースに合わせて過ごして頂けるように努めている。フロアでもゆっくりくつろげる1人スペースを作っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は苑に業者が来苑。必要に応じて対応している。服は本人に尋ねたり、こちらから提案することもある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはトレー拭きをお願いしたりする。その方の食べられる量に合わせた盛りつけ、食べやすい様に刻んだり工夫を心がけている。	法人の厨房施設で作られた料理を各ユニットで盛り付けしているが、朝食と日曜の夕食は各ユニットで調理する。利用者の状態に合わせた対応がなされ、食事介助をしながら職員も食事を摂っている。誕生日会の楽しい雰囲気の醸成に配慮している	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に1日の水分量や食事摂取量、服薬、排泄関係など一目でわかるようになっている。水分量少ない方などに対して声掛けの工夫や提供の工夫に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各居室に行い、必要な方には見守りや職員が行って清潔保持に努めている。また、週1回の歯科往診にて口腔ケアや必要に応じて診察を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り布パンツ・尿取りパット使用でトイレ誘導している。定時ではなく個々のパターンを把握に努め対応している。	排泄チェック表により排泄リズムを把握し、できるだけトイレ誘導で失禁をなくす介護を心掛けている。水分補給の確認と便通確認で気持ちよく過ごせる支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に個々に合わせ冷たい牛乳や温かい牛乳とヨーグルトを提供し、希望者にはヤクルトも提供している。午前中には体操をし運動も毎日行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回を基本に入らせていただいている。また、拒否の場合は時間をずらしたり日にちを変えて入っていただき対応している。	基本的に週に2回個室風呂で入浴し、職員が1人介助でコミュニケーションを図っている。3階のユニットは重度の利用者が多く職員2人で入浴介助を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に散歩など行いなるべく起きていただき、就寝時には眠りにつけるよう声掛けなど随時行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋があり、いつでも確認できるようになっている。服薬するまでに3度のチェック、服薬時には声かけ、工夫をし確実に服用できるように努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1回季節にちなんだ合同レク・外出レクを行っている。また、利用者一人一人に合ったサービスとしては買い物と一緒にいたりしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれの希望に合わせてパチンコや喫茶、買い物に行っている。	ベランダに出たり、散歩やドライブ、買い物に出掛けたり、花見、紅葉狩り等、なるべく戸外に出る機会を試行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人では所持されていない。現在は、お財布をこちらで預かり家族の了解を得て、本人の好むものを選んでもらい支払いをしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解があれば、電話・手紙のやり取りができる支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく快適生活空間を作りながら季節感を感じていただける範囲で飾っている。	広いリビングにソファが置かれテレビを見たりベランダからの眺望を立って眺めている利用者が手を振って迎えてくれ安心した。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・リビングなど利用者間で談笑できるスペースは快適に確保されている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には今まで使っていた思い入れのあるタンスなど置かれたり、趣味の植木を持ち込まれたり自分だけの空間、時間で安心して過ごされている。	個室にトイレがあり、ベッド、洋服掛け、好みの椅子、テーブル、CDプレーヤーなどが持ち込まれ配置されていた。採光が良く明るい。特技を活かした作品もあり、家族の写真も多く見られた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本は残存機能を活かしてできることはしてもらう。洗濯たたみなど積極的に取り組んでいただきながら、一人の時間もゆっくと過ごして頂いている。		